

東瀟会だより

2007年7月15日号

vol.1

発行 東瀟会

会長 佐藤章夫

小川徳男君(トヨタ輸送社長)を囲む会(4月26日)

【スペシャルオリンピックス支援イベントで来形】

知的発達障害者のスポーツ大会「スペシャルオリンピックス」を支援しているトヨタ輸送株式会社(愛知県豊田市)の取締役社長・小川徳男君(村山市出身・弓道部)が来形した去る4月26日夜、山形東瀟会の有志が歓迎と激励の意を表し、JR山形駅前の宝来寿司で同君を囲む会を開いた。



小川君は「第4回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・山形」を支援する「講演会とパーティー」に出席するため来形し、スペシャルオリンピックス日本の創設者である細川佳代子名誉会長とのトークセッションに出演した。この「講演会とパーティー」に東瀟会の会員約30人が出席、支援パーティーの後、席を宝来寿司

に移し、改めて同君を囲みながら旧交を温めた。(写真)挨拶に立つ小川君=中央

【知的発達障害者スポーツ大会・来年3月、山形市で開催】

「第4回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・山形」は来年3月7日(金)から9日(日)までの3日間、蔵王温泉スキー場やウェルサンピア山形屋内スケート場、山形市総合スポーツセンターで開かれる。スキー、スノーボード、スケート、フロアホッケーなどが行われ、全国各地から約1000人の選手団と3000人の大会役員・スタッフ、ボランティアが参加するという。

【トークセッションで県民に呼びかけ】

「講演会と支援パーティー」は大会の成功に向けて県民の関心を高めようと山形市荒楯町のパレスグラウンダーで開かれた。細川名誉会長が「スペシャルオリンピックスの可能性」と題して講演した後、小川君がトークセッションで細川名誉会長とともに登壇した。同君は「トヨタ輸送が支援している名古屋フィルハーモニーの指揮者を通して皇后さまとお目にかかった際、皇后さまから直接スペシャルオリンピックスについてお聞きしたのがきっかけ」などと、スペシャルオリンピックスに関わるようになったいきさつなどを紹介しながら一般県民への協力と支援を呼び掛けた。

小川君は新潟大学工学部を卒業後、トヨタ自動車販売(現トヨタ自動車)に入社。米国トヨタ自動車販売副社長、トヨタ自動車取締役、トヨタ海運社長などを歴任し、2002年からトヨタ輸送の社長を務めている。

山形東瀧会・平成 19 年度総会(4 月 21 日)

【40人が出席、「東瀧会47年を語る集い」の開催準備へ】

山形東瀧会(秋葉建司会長)の平成19年度総会が4月21日午後6時からJR山形駅前の宝来寿司で開かれた。仙台から駆け付けた遠藤政宏君、笠原亮太君を含め40人が出席、平成18年度の事業報告や収支決算報告、19年度事業計画などを承認したほか、清水彬君の講話「長寿化リスクに対する心構え」を聞いた。さらに懇親会では互いの近況報告や思い出話に花を咲かせながら盛り上がった。

19年度の事業では9月17日(月)、18日(火)の両日、東根温泉「花の湯ホテル」で開く「東瀧会47年を語る集い」が最大のイベント。その実行委員として山形東瀧会の役員31人があたり、さらに12人の小実行委員会を組織して具体的な準備を進めることになった。

【清水君が講話・加齢に伴うリスクと向かい合う姿勢】

清水君はファイナンシャルプランナーであり金融広報アドバイザーの立場から年金、医療・介護、住まい・住み替え、資産運用などライフサイクルや加齢に伴って発生するさまざまなリスクを紹介し、いずれも他人事ではなく各人が身近に向き合う姿勢が必要であることを説いた。

【謡曲愛好会「瀧謡会」が例会の成果を披露】



席上、古典芸能に挑戦している謡曲愛好会の有志が練習の成果を披露した。謡曲愛好会は「瀧謡会」(兼子正克会長)と称し、毎月第2火曜日の午前11時から宝来寿司の2階で例会を開いている。

師匠は松田博之君。会員は15人。約1時間のけいこに続き昼食会があり、会費は昼食代を含めて毎回1000円という。この日は日頃の成果発表を兼ねて、源義経の少年期にまつわる小謡

「鞍馬天狗」を披露した。(写真)「瀧謡会」の面々=6月例会から

山形東瀧会の愛好会交流

山形東瀧会では謡曲愛好会のほか囲碁愛好会(園部稔会長)、ゴルフ愛好会(加藤洋一会長)、麻雀愛好会(推名誠一世話役)が定期的な例会を開き親睦、交流を深めている。

【囲碁愛好会は年3回】

囲碁愛好会が発足したのは2年前の平成17年7月。年3回(3月、7月、11月)、ホテルキャッスルで例会を開き、盤上での攻防を楽しむ。

今年は最初の例会がメンバーの都合で5月27日(日)にずれ込んだ。千葉から駆けつけた高坂知勝君を含め9人が参加し、およそ半年ぶりの対局を堪能した。(写真)囲碁愛好会のメンバー



【ゴルフ親善コンペ】

ゴルフ愛好会が発足したのは3年前に開いた3年5組のクラス会がきっかけという。2004年11月、蔵王CCで親善コンペを開いて以来、毎年2回の例会を実施するようになった。2005年は栃木県那須高原、2006年は福島県白河高原で東京東濤会との合同コンペを楽しみ、今年最初の例会は7月1日、宮城県マグノリアCCで行われた。武田眞君(沼津)、佐藤顕也君(熊谷)、丹野博夫君(福島)ら県



外組3人を含め18人が参加。佐藤顕也君(ハンディ24)がアウト47、イン50で回って優勝した。ベストグロスはアウト41、イン44の桜井紀夫君(ハンディ10.8)だった。(写真)7月1日の例会から

以下順位は次の通り。 清水彬君 渡辺宏一君 桜井紀夫君 斎藤勇夫君 加藤洋一君 沼沢政辰君 鈴木舜太郎君 田中和一君 松永貴夫君 仲野隆一君 武田眞君 佐藤恵辞君 丹野博夫君 兼子正克君 遠藤彰君 山川茂君 鈴木正朗君

【2カ月に1度の麻雀愛好会】



麻雀愛好会は偶数月の第4火曜日に集まる。会場は江南地区の清水公民館。午前10時から午後3時ころまで昼食をはさんでの対局を楽しむ。参加者は12~13人。和やかムードの中でも相手の手の内を読みながら大役づくりに励んでいる。会費は昼食代を含めて毎回千円。昼食は兼子正克君自慢の手打ちそばをご馳走になることもあるという。(写真)6月26日の例会スナップ

【草壁成義君急逝】

新庄・最上地区で長く教職にあった草壁成義君が去る3月25日午後8時50分、病気のため急逝されました。2月2日の山形東高体育部OB会総会で功労者表彰(サッカー部)を受け、受賞者代表で元気にあいさつしたばかりでした。草壁君は舟形中学校校長で退職した後、知的障害者通所授産施設「友愛園」の園長を務め、福祉活動にご尽力なさっておりました。

東濤会から小・中学時代でも同級生だった田中和一君、東高サッカー部で同期だった近藤元一君、佐藤圭司君が葬儀に参列し、それぞれが弔辞を述べ、早い別れを惜しみながらご冥福を祈りました。

「東瀟会だより」発行にあたって

長寿に伴うリスクの一つに寂しさ、心細さを伴う「孤独化」がある。家族、仲間、地域...からの「孤独化」、何れからも避けること不可。そこで、少なくとも東瀟会の仲間をこの「東瀟会だより」により、未永く繋ぎ続けられればとの思いから発行する運びとなりました。(佐藤章夫)

1. 発行趣旨 東瀟会会員間の情報受・発信、話題の提供による親睦、交流の促進

2. 内容・体裁等

(1) 催事、会合、行事、愛好会活動の状況

(2) 個人的に発信したい、してあげたい情報。ただし、個人的利益に関する情報は避ける

(3) 慶弔に関する情報は入手した範囲で

(4) その他トピックス

(5) 形式、体裁は平易かつ簡略なものとし、情報の伝達が狙い

3. 発行回数 年2～3回とし、話題があれば随時

4. 発信方法

(1) 初回は郵送するが、2回目からは電子メールにしたい

(2) メールアドレスがない場合は郵送(メール移行のつど連絡を)

(3) 初回郵送の際、電子メールまたは郵送を選択するハガキを同封

(注)返信の協力を願います

5. 発信対象者

(1) 原則として東瀟会の最新名簿に基づき全員に発信

(2) 消息不明、返信がない場合は判明するまで発信を留保

(3) メールアドレス、住所変更はその都度連絡を

6. 情報の収集等

(1) 諸会の幹事だけでなく多くの会員諸氏から発信、投稿してもらう

(2) 発信は電子メールまたは文書による

7. 世話人

鈴木正朗 : aez76260@wind.odn.ne.jp (TEL)023 - 608-7192

〒990-0041 山形市緑町2 - 15 - 44

小笠原英雄 : oga-1629@agate.plala.or.jp (TEL)050-7511-9155

松永貴夫 (TEL)050-3014-5744

清水 彬 : a-17-k@amber.plala.or.jp (TEL)050-7547-9249

8. その他

電子メールでの発信は郵送代を圧縮するため。第1号は山形東瀟会の話題が主体になったが、次回からは東京東瀟会をはじめ県外在住者の話題をできるだけ多く掲載したい。会員諸氏の近況、新たなライフスタイルへの挑戦、受章・受賞の話題、趣味の作品、随想...等、積極的な発信、投稿の協力を願います。誤字、脱字はご容赦下さい。

会員投稿

《歩け歩け！還暦の一人旅》

時速 5 ㎞の伊勢参詣

かなりの旧聞で恐縮だが、定年退職した翌年の 2003 年 4 月から 5 月にかけて山形から三重県の伊勢神宮まで歩いて旅したことがある。特別に理由があったわけではなく、心身ともに健康で還暦を迎え、42 年に及ぶサラリーマン生活を全うした記念に改めて自らの気力、体力を試してみるつもりだった。



「時速 5 km の伊勢参詣」と称し、自分の足だけが頼りの一人旅。山形の自宅を出発して 10 日目に東京へ到着。さらに箱根を越え、大井川や木曾三川を渡って 27 日目に伊勢神宮を参拝し、余勢を駆って奈良県の室生寺まで足を伸ばすことができた。

福島までは旧羽州街道、福島からは国道 4 号、東京からは国道 1 号を軸にしたルート。野を越え、川を

渡り、つづら折りの峠道も幾つか越えた。石畳の旧街道が残る箱根 8 里は 2 日掛かりでクリアした。

宿泊はビジネスホテルが中心。民宿や健康ランド、サウナも利用した。健康ランドやサウナは風呂場が広く、意外に疲れがとれた。1 日に歩いた距離は平均 20 ㎞から 30 キロぐらい。45 ㎞を超したこともある。道すがら時間的な余裕があれば各地の神社仏閣、名勝、史跡を訪ねた。

栃木県矢板市で警察官の職務質問を受け、静岡県の小夜の中山では自動車専用道路に迷い込んで立ち往生するなど、ハプニングも少なくなかった。しかし毎日が刺激的で新鮮そのもの。最終的には奈良から高槻市までの行程を含め 32 日間、1000 キロ近くの道のりだったが、体調を崩すこともなく、あっという間に過ぎたような気がする。



山形市南栄町 2 - 7 - 4 - 901 小笠原英雄